

第4回研究会

次年度に向けた合宿研究会

里山学研究センター・リサーチ・アシスタント

野間 元綺

2019年9月5日（木）から9月6日（金）にかけて、滋賀県東近江市八日市商工会議所において、里山学研究センターの運営会議構成員を中心に（1）2020年4月から3年間の龍谷大学「重点強化型研究推進事業」への申請について、（2）2020年度科研費申請について、（3）戦略的支援事業終了年のとりまとめについての3点につき議論を行った。

参加者は牛尾洋也・丸山徳次・伊達浩憲・田中滋・村澤真保呂・宮浦富保・遊磨正秀・秋山道雄・中川晃成・太田真人・眞田章午・野間元綺の12名である。

- （1）龍谷大学「重点強化型研究推進事業」への申請については、①申請題名の仮決定「持続可能な自然共生社会の地域モデル構築に向けた総合研究」（その後の会議にて、申請題名は、「「人新世」時代の新・里山学の創造—新たな「自然」概念構築と「自然との対話」方法論の確立に向けた文理融合研究」に変更された。）、②次年度以降の里山学研究センターの活動に参加してもらいたい研究者のピックアップ、③本申請の最終目標をどこに設定するのかの検討を行った。
 - （2）科研費申請については、①森を研究対象とするのか、水を研究対象とするのかといった研究対象の選定、どの枠組みで申請を行うのか（基盤研究のAで申請するのか、Bで申請するのかなど）の決定を行った。
 - （3）戦略的支援事業終了年のとりまとめについては、①12月21日の最終シンポジウムでの講演者の検討、②琵琶湖に関する提言の実施の検討を行った。
- 今後の里山学研究センターの方向性の決定のための有意義な合宿になったと考える。